

## アイヌの伝統的生活空間の再生に関する事業実施計画（平成19年度）（案）

### I 事業目的及び推進体制

#### 1 事業目的

平成19年度の白老地域におけるアイヌの伝統的生活空間（イオルの森）の再生事業については、「アイヌの伝統的生活空間の再生に関する基本構想」及び「アイヌの伝統的生活空間の再生に関する実施要領」に基づき、平成18年度事業の成果・検証を踏まえながら、平成20年度からの空間の試行的運用開始に向け、採取と植栽の循環に向けたイオルの森の形成を図るとともに、アイヌの人々が中心となった伝承活動等への支援や運営管理体制の整備を図ることを目的とする。

#### 2 推進体制

##### （1）基本方針

アイヌ文化振興等施策推進会議が全体的な監理を行う下で、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が事業主体として、白老町、アイヌ文化伝承活動実践者やアイヌ文化に関わる団体・個人等の協力を得て事業を実施する。

##### （2）事業実施方法

- ① 地域における事業の実施にあたっては、その内容に応じ適切な関係団体等に委託する。
- ② 樹木や植物の植栽については、林野、土壌、有用植物等に関する専門機関、林業・農業改良普及員又は学芸員、アイヌ文化伝承活動実践者などの指導及び協力を得て実施する。

##### （3）推進管理等

白老町内の既存施設の設備・施設を活用した事務スペースを確保し、地域における事業拠点として推進管理を行う。

##### （4）その他

アイヌ文化振興等施策推進会議の構成機関は、相互に連携を図るとともに、必要に応じて関係機関の協力を求める。

## II 事業実施内容等

### 1 イオルの森の形成・・・採取と植栽の循環に向けて

#### (1) 植栽及び試験栽培

##### ① 植栽地区

アイヌの人々が伝統文化活動を行う際に必要となる自然素材を将来的に確保するため、平成18年度の成果等を踏まえながら、ポロト自然休養林、陣屋及びヨコストの3地区において、春植えを始めとする植栽を実施し、将来的な採取及び採捕空間の整備を図る。

植栽にあたっては、植栽した樹木等が生育した際、自生状態に近いものとなるよう配慮するとともに、周辺も含めた自然環境の復元を目指す。

##### ② 試験栽培地区

アイヌの人々が伝統文化活動を行う際に必要となる自然素材の安定的な確保に向けて、平成18年度の成果等を踏まえながら、ポロト及び森野旧苗畑地区において試験栽培を実施し、育成のための手法等の確立を図る。

##### ③ 植栽、試験栽培にあたっての留意事項

- ・ 両地区とも「イオル再生等アイヌ文化伝承方策基礎調査」（平成15年度・16年度：財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構）その他の白老地域における植生調査等の結果を踏まえ、白老地域の生態系に十分配慮する。
- ・ 鳥、シカ、野ネズミ等による被害防止のため、柵、ネット等による対策を講じる。
- ・ 植栽地区については、自生する樹木や植物の採取又は生息する動物等の採捕が将来的に行える空間を維持できるよう、その生育状況等に十分配慮する。
- ・ 平成18年度の植栽及び試験栽培地区についても適切な肥培管理を行う。

#### (2) 自然素材採取地区の設定

植栽地区において、自然素材が確保できる環境が整うまでには、なお数十年の期間を要することから、イオルの森の空間としてのスケールを確保し、アイヌの人々が一定のルールに則り、自由に採取、採捕が行えるようにするため、竹浦、石山及び社台の3地区7ヶ所を自然素材採取地区として設定する。

#### (3) 採取と植栽の循環

イオルの森において、アイヌの人々が将来に渡り継続して自然素材の確保が可能となるよう、自然素材の採取と植栽の循環の確立を図るものとする。

このため、自然素材採取地区において、踏査等により自然素材の現存量を把握した上で、イオルの森を舞台に行われる具体的な採取や採捕等の活動も踏まえ、自然素材の枯渇を招くことがないよう素材の自然回復や試験栽培地からの移植を考慮しつつ、長期的観点からの循環と採取の確立に向けたルールを策定する。

## 2 イオル型文化伝承の確立・・・アイヌの人々が中心となった活動等

### (1) アイヌの伝統文化ライブラリーの構築

アイヌの伝統・文化を取り巻く環境は、白老地域においても伝承者の高齢化等が進み大変厳しい状況が続いている。

このため、環境の変化に影響を受けにくい機関（博物館等）を核として、白老地域のアイヌの人々の協力の下、伝統文化の保存・伝承活動の現状や意向等に関する情報を体系的に整理し、この情報を「白老地域におけるアイヌの伝統文化のライブラリー（電子情報）」として構築する。

構築されたライブラリーについては、イオルの森を舞台にアイヌの伝統・文化の保存・伝承を実践的に行う人々への参考に供するほか、自然素材の確保に当たっての基礎資料としても活用する。さらに、他地域においても、博物館等の連携の下で活用できるような取り組みを進める。

### (2) イオルの森において行われる伝承活動等への支援

#### ① 伝承活動

アイヌの人々は、イオルの森が形成されることにより、植物やサク等の自然素材の採取又は採捕から、利用、加工、調製、保存等までの一連の工程を実践的に行うことが可能となる。

こうした主体的な伝承活動を支援するため、イオルの森を舞台に上記ライブラリーを重点的に活用する仕組みを構築し、伝承活動等に関する実践的な講座を開催するなど、次代のアイヌの伝統文化を担う人材の育成に寄与する。

また、これらの活動成果についてもライブラリーに登録し情報の充実化を図るほか、実践的な伝承活動を行う人々には、体験交流を始めとする各種事業にも参画をいただき、地域全体で連携した取り組みを進める。

#### ② 体験交流事業

体験交流事業については、イオルの森を舞台に実践的な伝承活動等と連携しながら、アイヌの人々の意向等を十分に踏まえ取り組んで行く必要がある。

このため、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、白老町、アイヌ伝統文化関連団体からなる体験交流事業を促進するための協議会を設置し、事業の実施に向けた体制整備や調査検討を進めた上で交流事業を試行的に実施する。

### (3) コタンの再生に向けた調査

平成18年度に実施した空間活用調査の結果を踏まえ、白老地域におけるアイヌの伝統的生活空間の核となるポロト湖畔周辺地域において、アイヌの人々がイオルの森から採取、採捕した自然素材を活用した伝承活動等を行うコタンの再生に向けて、土地利用や必要な設備、施設等に関する調査を実施する。

### (4) その他

水産動物の採捕や鳥獣等の捕獲、国有林野内での植栽、河川区域内の行為などに関する規制緩和や許可に関し、アイヌの人々の意向等を踏まえつつ、有効な措置等についての検討を進める。

### 3 イオルの森の運営管理体制の整備・・・アイヌの人々が中心となった運営管理へ

空間を効果的に活用するため、イオルの森における自然素材の採取又は採捕ルールやアイヌの人々の活動に関する意向等を踏まえ、空間の利用や維持管理等に関するルールを策定するとともに、平成20年度からの試行的運用開始に向け、アイヌの人々が中心となって運営管理を行う体制の検討・整備を行う。このため、既存の設備・施設を活用した事務スペースを確保し、地域における事業拠点として推進管理を行う。

### 4 イオルの森ネットワーク形成に向けた検討

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、関係機関等と連携し、学識経験者やアイヌ伝承活動実践者の意見も踏まえつつ、イオルの森のネットワークの形成に向けての地域特性や機能分担などについての検討を行う。

## 5 その他

### (1) 実施状況の検証

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、実施状況について取りまとめ検証を行い、その結果をアイヌ文化振興等施策推進会議に報告する。

また、アイヌ文化振興等施策推進会議における検討結果等を踏まえつつ、事業の効果的な推進を図る。

### (2) その他関連する事業の活用

本事業の効果的な推進を図る観点から、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が実施する他の事業のほか、関連する事業等の活用を図る。

### (3) 弾力的な実施

植栽の内容については、その生育状況等に応じて、樹種や植栽本数等を弾力的に実施するとともに、植栽等に要する人件費等についても配慮する。

体験交流事業については、事業予算の執行状況及び協議会における検討状況を踏まえ、試行的実施内容について配慮する。